

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570512632		
法人名	社会福祉法人 久盛福祉会		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	秋田県由利本荘市岩城富田字根本10番地22		
自己評価作成日	令和5年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.amasagi.or.jp/">http://www.amasagi.or.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和5年12月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のお祭りや行事に参加、地元の方との茶話会やハーモニカボランティアの開催もある。近くのお店での買い物や床屋など地元の方々との交流を大切に社会への支援を繋ぎ支援している。その日の状態と気分、意向に合わせて気軽に外出など行き季節を感じられ楽しみのある生活を送られるようにしている。季節感を感じられるよう旬の食材を使用し入居者様のリクエスト等を献立へ取り入れ彩りや健康面、栄養バランスに気を付けて提供している。入居者様と一緒に調理、後片付けを行い家庭的な雰囲気やグループホームの役割や目的を意識し支援をしている。グループホームでの入居が難しくなった場合でも隣接する施設と協力して御家族様と入居者様が安心できる体制を整え支援が受けれる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は清潔感があり感染対策も十分に行われている。天窓からの採光もあり館内は明るく居心地の良さが感じられます。利用者1人1人の個性を尊重した対応がされている一方で、安全面にも配慮し利用者の行動ができる限り制限される事のないよう取り組まれています。また、積極的な延命等を望まず医療行為が伴わない方に対しては利用者・ご家族の希望に応じて事業所での看取りも可能で、年1回は本人、ご家族の意思確認をしている。災害時や日々の健康管理面でも法人内での連携体制がとれています。コロナ過で縮小していたが、地域のお祭りや行事に参加、地元の方との茶話会やハーモニカボランティアの開催、近くのお店での買い物や床屋など地元の方々との交流を大切に社会への繋ぎ支援している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえて、事務所内に理念を掲示し、職員間共有し基本的な立ち返りとしている。職員個人で確認し実践へ繋がるように努めている。	法人の理念を踏まえた事業所の理念を職員全員で毎月の会議で確認し職員個人個人が実践につなげている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対応変更となり馴染みの床屋や商店に出かける機会が増えボランティアの受け入れを再開し、少しずつ交流の機会が増えている。	コロナ感染症対応変更後、ボランティアの受け入れを再開して地域とのつながりは継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や家族交流会を行いグループホームのサービスへの理解や生活について写真を交えながら伝え地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催している。地域住民、入居者、行政職員、ボランティアの方参加している。施設の取り組み、質問などを答え等意見交換しサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回実施され入居者地域住民や行政職員、ボランティアの方の参加し、施設の取り組みの紹介や住民からの質問に答える等し意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や毎月の地域ケア会議へ参加できる時は参加し意見交換を行うように努め、地域包括支援センター、グループホーム協議会等通じ、空床情報と状況等協力関係を築くように努めている。	運営推進会議での関わりの他、毎月の地域ケア会議での意見交換の機会もあり、その中で、施設の空き状況を報告したり、法令等に関する問合せ等を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束は行っていない。高齢者虐待防止の地域ケア会議委員会、委員会会議開催、担当管理者の設置、施設内研修の開催を行いチェックシートを使用し、随時職員間でも日常的に意識し行っている。	身体拘束は行われていません。身体拘束や虐待防止について年2回学習会を開催しチェックシートを活用し高齢者虐待防止、身体拘束、権利擁護などを認識して対応している。事業所の施錠は21時から6時までとなっており、必要以上に施錠しないように取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関して御家族様から質問、相談等ある場合は、法人相談室、包括支援センターと連携し対応できる体制にある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は、ご本人、ご家族と面談を重ね十分な時間をかけ確認し、懇切丁寧な説明に努めている。改訂時等速やかに文書を交付、説明し同意をいただいた上で、サービス提供している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。御家族様へ意見箱設置の説明もしている。日頃より御家族様、入居者様からの意向や思いが理解できるように言葉かけに配慮し意見や要望を言いやすいよう面会、連絡時等伺うようにしている。	意見箱を設置している場所を提出しやすいように玄関に配置換えをしたが意見箱には入っていない。事業所として運営などに関する意見がないかどうかを請求書送付時に行事予定などのお知らせのほか要望についても伺うようにしている	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月のユニット会議や日々の申し送りなど意見を出し合いケアの見直しや業務改善について話し合い意見が反映されるよう実践に繋げている。事業所内で対応が難しい時は法人の運営会議に報告し検討する仕組みが取れるように努めている。	毎月のユニット会議や日々の申し送りの中で意見を聞きながら、職員の意見が運営に反映されるように努めている、挙げられた意見について事業所では対応できないものについては、法人の運営会議に報告し検討する仕組みが取られています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は東京事業所の運営にも参加し、広域的な情報共有と質の高いケアの向上に努めている。毎月多職種での運営報告を行い交流できる場がある。法人内の研修にも参加しサービスの質の向上へ努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居以前の生活歴を御本人や御家族様より情報を頂き、フェイスシートを作成しケアに活用している。性格や好みに配慮し気持ちを汲みながら丁寧に説明し信頼関係を築くよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までの在宅生活での苦勞、大切なことを理解し、プランへ反映させている。入居後の利用状況を報告しながら、自宅でしていたことなどの継続ができるように支援している。ご本人の様子など報告を密にして御家族様との信頼関係の構築に努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意とする事、できる事、できるであろう事、好きな事を活かし日常の支援をしている。日頃からお互いの感謝の気持ちを伝え共に暮らしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の情報について細かく報告し共に支えられるよう思いを汲み取り特に注意しながら、日々の面会、外出、病院受診、必要な物品等御家族様としてできることはお任せし、共に支えていく関係に努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	御家族様、ご親族等、友人様等面会に来られ、以前から通っていた床屋、商店などに行っている。要望があれば田園から電話対応やスマートフォン使用し直接電話している方もいる。ご本人の要望に合わせ支援に努めている。	家族以外の友人等との手紙や電話のやり取りをしている。また、行き慣れた商店や床屋を利用し続けられるように支援している。スマートフォンを持っている利用者もあり、直接家族と連絡している。面会も1回15分、3名(子供可)までしている	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御本人の性格や生活歴、病状の状態に合わせてながら、入居者同士共に支え合う関係作り配慮に努め、トラブルにならないようにその都度対応、必要時職員介入しながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様のご要望、ご本人の状態により、他の事業所、法人内サービスへ住み替えになった方へ面会に行き様子を伺ったり、その部署の職員とも情報共有している。御家族様の要望等確認し相談や提案、支援に努めている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の御本人とのコミュニケーションを取ながら希望や意向を聞き、また関わりの中で御本人の表情、行動、言動、思い等を汲み確認し職員間で情報共有しながら臨時のカンファレンス等行いケアプラン作成など本人本位になるように検討している。	日々の関わりの中で、利用者の意向を伺っています。また、家族等からの聞き取りを通じて本人の生活歴からの把握に努めるなどしている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを活用しアセスメント表や御家族様等からの情報、御本人との会話を図り環境面等でも不具合な個所が無い確認している。生活歴、生きがいなど御本人の状態にあわせて経過等の把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	看護師を交え3ヶ月に1回行っている。状態に変化があるとき必要時その都度カンファレンスを行っていプランの見直しをしている。	3ヶ月ごとに多職種を交えてケアカンファレンスを行っている。状態に変化があるとき必要時、その都度カンファレンスを行い、プランの見直しをしている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に個別記録に記入している。ケアに対する工夫や連絡事項等あれば連絡帳と個別ノートを活用して情報共有している。職員間で申し送りを行い介護計画見直しに努めている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策しながら馴染みの床屋、商店への買い物、先祖代々のお墓へ墓参り、努めていた先での展示会への参加、外出する機会を多く持ち心豊かに笑い暮らすことができるよう支援し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医と救急受診先を確認している。24時間体制で受診困難時は電話連絡等取りあう体制ができている。御家族様の協力を得ながら入居後もこれまで利用してきた医院や薬局の利用をしている。必要時に他の科の受診も行っている。かかりつけ医、かかりつけ薬剤師と連携し支援している。	家族の協力も得ながら、入所後もこれまでのかかりつけ医やかかりつけ薬局の利用が可能。24時間体制で受診困難時は電話連絡等取りあう体制ができている。また、必要な方については歯科受診も行っています。事業所はかかりつけ医や薬局との連携が出来ている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師と医療連携を結び、週一回の訪問、24時間体制での相談ができるように体制がある。体調の変化に合わせてかかりつけ医、医療機関に相談、報告し受診に繋がるように支援している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医、病院関係者との情報交換をし御家族様、入居者様、職員は治療方法を聞きながら早期退院できるよう対応に努めている。法人内の相談室とも連携し退院後の相談にも応じている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについての要望の説明と確認を御家族様、御本人含め行っている。御本人の状態報告を行いながら法人内看護師、かかりつけ医、他病院医師と連携を図りながら御家族様へ説明し支援に努めている。	入所時に看取りの指針の説明を行い、事業所での看取りに対しての理解を得られるよう努めている。また、年に1回程度重度化や看取りについての意見や要望を伺う等して本人、家族の意向を確認するよう努めている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアル、フローチャートの確認、救命講習への参加、シミュレーションでの訓練を実施し実践力が身につくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練(夜間・日中)、水害の災害を想定した避難訓練も行っている。消防や多職種からの意見を参考に避難時の動きの見直しをしている。最少の人数、また法人内応援も活用している。地域のボランティアの参加ができるように努めている。	年2回の避難訓練(日中・夜間)を行っています。日中想定においては人出が少ない場合を想定して行う等災害対策に対する意識の高さがうかがえます。災害時の備蓄も法人と連携して確保している。事業所BCP作成は未着手とのこと	法人にはBCPが作成されているとのこと事業所のBCPを法人と連携して作成されることを望む
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮し、その人らしさを理解し御本人の誇りとプライバシーを守れるよう身体拘束・高齢者虐待防止にも努め6つの約束を決め法人内で周知徹底している。その方にあったパーソナルスペースや声掛けを配慮しながら支援に努めている。	認知症や身体拘束についての学習会等を通じて、行動が制限される事のないように6つの約束を決め、適切な言葉使いやプライバシーに配慮した対応がされパーソナルスペースや声掛けに配慮しながら支援に努めている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人からの髪染めや化粧品購入の要望があり対応している入居者様がいらっしゃる。更衣や化粧などの身だしなみを女性、男性らしく楽しめるように御本人が選ぶ事、衣装を褒めたりアドバイスする事でおしゃれが楽しめるように支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や旬の物を取り入れている。その日のメニューを変えたり味見などしてもらっている。家事活動では御本人の有する能力に合わせた作業、食材切り、食器洗い、食器拭き、掃除等職員と一緒に会話を交えながら行っている。	残存機能を活用する事を意識するとともに、興味や関心にも配慮し利用者個人に合わせて役割を与え食事を楽しめる工夫がされている。献立は利用者の希望が反映されるように配慮されており、季節の食材や旬の物など、メニューに取り入れられている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや嗜好に配慮し食物繊維、乳製品、季節の品を盛り込んだ献立としている。一人一人の水分摂取量の把握をし好みに合わせ数種類の飲み物を用意し提供している。御家族様の協力も得てゼリーなど用意もしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状態に合わせてケアを行っている。見守りや声掛けが必要な方にはわかりやすい言葉で出来る限り自立して出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め出来る限りトイレでの排泄が継続できるように排泄状況の把握とその方に合ったタイミングでの声掛け支援し自立した排泄介助へ導くことが出来るよう排泄の障害タイプを考察しながら自立できるよう努めている。	利用者一人一人の排泄パターンの把握に努め、出来るだけトイレでの排泄が継続できるように努め、ほとんどの利用者がトイレで排泄している。その方に合ったタイミングでの声掛け支援し、自立した排泄介助へ導くことが出来るよう排泄の障害タイプを考察しながら自立できるよう努めている	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューの中に、乳製品、食物繊維豊富な品を取り入れ十分な水分補給、適度な運動に努めている。それでも改善されない時はかかりつけ医に相談し内服調整を行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を決め一番風呂へこだわられる方、汗をかき入りたいという方、体調を確認し一人一人のタイミングに合わせ無理強いせずに喜んで入浴できるよう声掛けを工夫したり時間を変えたり、すすんで入浴できるように支援、清潔保持に努めている。	入浴は毎日午前中に行っています。入浴を嫌がる利用者に対しては、体調を確認し一人一人のタイミングに合わせて無理強いせずに喜んで入浴できるよう声がけを工夫したり、時間をずらす等して対応している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は午後21時を目安に照明や室内等の温度管理に配慮し静かな環境を作っている。寝具類の調整をし心地良く休めるように一人一人の体調や就寝時間へ配慮し支援している。眠れない時には静かに寄り添い見守るケアに努めている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記録ファイルへ添付している。処方内容の確認、副作用等情報共有し理解に努め確認している。個別ノートへの記載、状態、症状の変化を共有し主治医へ細かく報告し受診へ繋げている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時の入居者の要望を聞きながら、ドライブ、散歩、買い物等気分転換をしている。コーヒー等嗜好品も提供している。行事や大晦日、外食先でお酒等も嗜む程度に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会がコロナも落ち着き増えている。その日の天気や外出希望の意向を聞きながら御本人の希望に添えるように行事の企画として個別で外出支援している。御家族様と外出し自宅や外食など協力して頂く事もある。	外出希望の意向を聞きながら本人の希望に添えるように個別で外出支援している。家族と外出、自宅や外食など協力して頂く事もある	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の了解を得て、おこづかい程度のお金を所持している方もいる。自ら支払いや、金銭管理ができるよう支援している。お金を所持していない方も田園の買い物時支払いをしていただく機会を作り好きな物を買う楽しみを得られるように支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から彩光もあり明るく過ごしやすくなっている。月一回の大掃除がありホーム内外の清潔に努めている。季節感のある装飾を入居者様とともに作っている。加湿器、空気清浄機の使用もあり湿度と温度に配慮している。対面キッチンになっており入居者様と会話しながら食事作りができる。畳の和室も今年度新調し昔ながらの居心地の良い環境になっている。	天窓からの採光があり施設内は明るく過ごしやすいです。トイレは車椅子でも支障のない広さがとられていて清潔感があり、月一回の大掃除で、ホーム内外の清潔に努められ、清掃が行き届いている。畳の和室も今年度新調したとのこと。昔ながらの居心地の良い環境になっている。感染対策も十分に行われている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩場所や談話が出来るように、椅子やソファを配置、入居者同士で思い思い過ごされ図書コーナーもあり活用されている。和室の畳やソファで気兼ねせずゆっくり居眠りされている方もいる。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、食器などを持って来ていただき自宅と似た空間作りをして居心地よく過ごせるように工夫している。小物や造花、家族との写真を飾り好みの物を置いている。	利用者個々に造花や興味のある物、大切な写真を飾る等して、居心地よく安心して過ごす事が出来るようになっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなく歩きやすい。全館床暖房あり暖かい。トイレやお風呂場、和室入れ口へ手すりを付け安全に自立した生活が出来るよう工夫している。死角な場所へモニターやセンサーの活用、安全に自立した生活ができるよう工夫している。		